

コーディネーター キャリアパス

地域にイノベーションを創出する18人

インキュベーション
産学官連携

技術移転
販路開拓

事業化支援

経済産業省

地域住民としてHAPPYな社会づくりへ

伴に歩き、伴に考える

中学時代を様々な国や地域で過ごし、海外の大学に留学するなど、豊富な海外体験を持つ宜保友理子さんですが、故郷である沖縄にこだわって、(株)沖縄TLOを設立。コーディネータとしての仕事をする上で重要なのは、「伴に歩き、伴に考える」ことだと考えています。



宜保 友理子

琉球大学 産学官連携推進機構
産学官連携コーディネータ

沖縄県出身。中学時代を様々な国や地域で過ごす。早稲田大学卒業後、早稲田大学やロンドン大学などの大学院で学位を取得。アメリカ・シリコンバレーで、スタンフォード大学やUCSD CONNECTのコーディネータなどを経て、平成18年に(株)沖縄TLO創立。平成21年から琉球大学産学官連携推進機構の産学官連携コーディネータとなり現在に至る。

中学時代に国内外で異文化を体験

— 幼少時代のことをお聞きしたいのですが。

3人姉妹の長女として沖縄で生まれました。

沖縄の方言で「うちなーびげーん」と言いますが、沖縄が一番素晴らしいと思っていました。それで、大学教授の父の教育方針で、家族で様々な国・地域で生活をしました。

そのとき海外で最も長く住んだのはイギリスのロンドンです。ロンドンで通った学校は、実に世界各地から生徒が集まってきました。でも、直接、沖縄からそんなところに行かせたらびつくりするだろうからと、その前にカナダの学校に通いました。また、日本を学ぶ必要があるということで、小学生の時には、京都に住みました。

すべて家族皆で移動し、様々な国・地域に住みました。感受性の豊かな時期を様々な文化・環境のなかで過ごしたこの経験は、私の財産です。

— どんなお子さんだったのでしょうか。

小学校1年生のときの京都で、担任の先生が遅れてくるという時がありました。校長先生が様子を見に行くと、担任がいなはずの教室が落ち着いている。どういふことだろうと教室を覗くと、転入して1カ月も経っていない私がオルガンを弾いてクラ



現在、宜保さんが重点的に取り組んでいる「沖縄健康・バイオ産業産学官連携拠点構想」のフォーラム。琉球大学を核とした産学官連携の下、健康食品産業を中心に、農業や一般加工食品、健康支援サービスなど関連分野を、沖縄の「健康バイオ産業」として発展させていくことを目指す



スの皆をまとめて歌わせている。私自身は、皆をまとめて「静かにさせなきゃ」と思っていた。
 そういう感じで、異分子だけど、リーダーシップをとって、コーディネートしていました。
 他に、今の仕事に関わることでと、小学生的時にラジオ体操がありました。が、楽しくないですね。朝早く起きて、ごほう

—— 大学は早稲田ですね。
 はい。卒業後、大学院に行きました。その後、国費奨学生として選ばれたので、地域振興開発学のさきがけであるロンドン大学に行きました。その時はこういうコーディネートになるとは思っていません。この、産学官の連携をとおして、地域を1つの商品と考えて売り込むというような、シティ・マーケティングという考え方も勉

—— 沖繩に戻ったのは。
 高校も引き続きロンドンでも行けたのですが、沖繩の高校を受験しました。
 私が思うに、ティーンエイジャーの時にどこに住み、何を学んでいたかで自分のアイデンティティが決まります。「なぜ沖繩にこだわるの」と海外で出会った日本人や仲間から聞かれます。故郷であることなどいろいろ理由はあるものの、多分にティーンエイジャーの時に沖繩にいたからだと思います。

アイデンティティは沖繩
 ぴはないけれども行かないと叱られる。ならば、ごほうびがあれば楽しいだろうと思えました。でも、子供会にはお金がありません。ハンバーガーショップや楽器店などでものさしなどの景品をもらって、フアンドレイジング(資金集め)する。そしてそれを、皆勤賞として、毎日来た子にあげて、ごほうびの一環にしてみました。

国立大学法人琉球大学 産学官連携推進機構

外部機関との研究開発の支援、知的財産の保護・活用の支援、起業支援を行うことで、地域振興に寄与するとともに、大学の教育・研究活動の活性化を図ることを目的に設立。平成19年に沖縄県と産業振興に関する連携協定、平成20年には沖縄振興開発金融公庫と産学連携推進に関する覚書を締結し、産学官連携による地域産業の振興発展をサポートする一連の仕組みを構築している。

● 電話 098-895-8597
 ホームページ

<http://www.iicc.u-ryukyu.ac.jp>



強していました。
 また、紛争予防ということを国際関係学の修士号を得るなかで学んでいます。交渉のプロセスや紛争予防という専門知識が、産学官連携の場においても、今後は非常に重要になってくると思っています。

その後、アメリカのシリコンバレーにおいてコーディネータを務めたりした後、5年前に沖縄に戻ってTLOの創立メンバーとなりました。

その後、琉球大学産学官連携推進機構のコーディネータとなり、琉球大学を中心とした地域の産学官連携の仕組みづくり、大学を核とした地域の産業振興のビジョンづくり、企業の技術相談、人材育成等を行っています。

一緒にHAPPYになれる社会に

——琉球大学TLOではなく、沖縄TLOですね。

オール沖縄型にこだわったからです。承認されていませんが黒字で拡大傾向です。設立に当たってはちょうど3分の1ずつ沖縄の産学官の皆様方に出資して頂きました。学は個人出資です。先生一人ひとりを回って出資を募りました。産業界には1社ずつ頭を下げて行きました。ですから、TLO設立をとおして、いろいろなことをたくさん学ばせて頂きました。支援してくださった皆様方には、心から感謝しています。

——目標は。

沖縄を良くする、などと大それたことは言えませんが、地域住民として一緒にHAPPYになれるような社会をつくれたら良いなと思っています。

最初は外務省に入って基地問題にあたる

とか、そういうことも沖縄のためになるのではないかも考えていたのですが、沖縄の振興を考えるためには、沖縄の空気の中で、沖縄の人と話しながら伴に歩んでいくことがとても重要であると身に染みしました。だから、ここ沖縄で、沖縄の振興を考えることを選んだのです。ライフワークです。

具体的には、地域のビジョンを創り「Associate(伴歩)する」「イノベーション・プロデューサー」を目指しています。

日々、企業さんはびつくりするような相談をしてきます。おいしいノニジュースを

つくりたいとか。その時に「いいですよ、誰々先生を紹介します」ではなく、「おいしいってどういうことでしょうね」とか、そういうことから伴に考えます。

私はTLOの社員の肩書を作る際、Associateという肩書にとってもこだわりました。

「Associateする」は伴に歩いていく、伴に汗をかいていく、伴に考えていく、そういうことがとても重要だと思いますし、そういう気持ちを持った人材がもっと増えれば良いなと思っています。

宜保 友理子氏 ◆ キャリアパス



4歳のころ

平成14年(助南西地域産業活性化センター 研究員(～16年))

NPO法人Okinawa Peace Assistance Center
創立(現在、理事)

平成15年 沖縄県立看護大学 国際関係学 講師
スタンフォード大学 アジア米国技術経営センター コーディネータ(～16年)

平成16年 Asia Pacific Youth Forum 日本代表コーディネータ
UCSD CONNECT(カリフォルニア大学 サンディエゴ校) コーディネータ(～17年)

平成18年(株)沖縄TLO アソシエイト(～20年)
同 新規事業創出支援グループリーダー(～21年)

平成20年 経済産業省「地域活性化のための技術力向上WG」委員

平成21年 国立大学法人琉球大学 産学官連携推進機構
産学官連携コーディネータ

コーディネーター キャリアパス

発行：平成22年3月

企画・制作：経済産業省 地域経済産業グループ 地域技術課

URL：<http://www.meti.go.jp/>

TEL：03-3501-8794 FAX：03-3501-7917

リサイクル適性[Ⓐ]
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。